

Waseda Vision 150 高等学院・高等学院中学部の将来構想の進捗状況報告

1. 2025 年度報告

(1) 入試関連

○ 入試広報活動の徹底

・卒業生がほぼ全員早稲田大学に進学する高等学院の優位性をアピールし、一貫教育に相応しい首都圏の優秀な生徒を確保するよう努めた。

・学校説明会は例年通り、実施した。

実施日 高校：9月14・15日、10月26日、中学部：6月22日、9月14日、10月26日

・公開行事を例年通り、実施した。

実施日 高校：学院祭10月11・12日、学芸発表会：11月15日 中学：学習発表会11月15日

・塾や予備校などの各種民間団体が主催する学校説明会、受験雑誌やインターネット配信番組などの民間メディアの取材にも積極的に応じた。特に2025年度は塾・予備校主催による慶応とのジョイント説明会が多かった。

(2) 教育関連

① ICTを活用した新しい学びの創造

中学部では1人1台のパーソナルコンピュータ必携化されており、高等学校で必携化が2年目を迎えた。ICTを活用した教育のデジタル化は今後の教育において重要な課題であり、高等学院でも柔軟で持続可能な教育方法をあらゆる学習機会において確立し、基礎的・応用的な学力を培うと共にその学びの質を保証し、新しい時代にふさわしい学びを創造している。特に、高等学校においてはすべての教科において探究的な学びの実現に向けICTを活用し、全員に対して統計やプログラミングを必修化し、データサイエンス教育を展開している。

② 文理を融合しグローバルな視点をもった多様な学びの空間の確立

社会科学系、自然科学系の授業や総合的な探究の時間等においてSDGsなど文理を融合したグローバルな課題に取り組む探究的な学習を一層推進した。また、第二外国語に関わるフランス、ドイツ、中国、ロシアとの交流やニュージーランドへの長期・短期留学を始めとする国際交流を展開した。そしてこれらの取り組みを通して、グローバルな視点を持った多様な学びの空間を確立した。

③ キャリアデザイン教育の推進

例年通り、各学部の協力を得て学部説明会を実施した。また2年生を対象とした学部モデル授業の実施、学院OBなどによる学部説明会などを実施した。学院生が進学後も各学部・各分野で活躍できるよう中高大一貫教育を見据えたキャリアデザイン教育を高大接続課と連携を取りながら推進している。生徒の中央幹事会主催の学部説明会も実施した。

○ 将来の学部・学科進学を見据えた基礎学力の養成

高大接続テスト（早稲田大学進学後に学術・研究の途を進むにあたって求められる基本的な知識・技能がどの程度身についているか確認するテスト）を実施した（11月7日）。

○ 進学後の可能性を広げる取り組み

・OB進路講演会（社会人OB約：20名、2年生対象）5月実施

・学部連携・・・モデル講義（各学部、2年生対象）5月実施

・日本医科大学への医学部進学指導の充実とキャンパスツアー（5月実施）への参加

④ 附属連携プロジェクト（WASS）活動の推進（本庄高等学院との協働）

生徒の主体的な活動としてのプロジェクト活動を活性化し、対面とオンラインにて交流を実施した。さらに、早稲田実業学校、早稲田渋谷シンガポール校、本庄高等学院と合同交流会を実施した（3月）。

(3) 研究関連

① 研究年誌発行（70号）

②外部研究資金への応募および獲得の推進

高等学院教員の文部科学省科学研究費、民間研究資金、学内研究資金などの獲得を促進に努めた。

今年度実績：科研費（2件）、学内特定課題研究助成費（29件）ほか

③教員研修（ファカルティ・ディベロップメント：FD）の充実

- ・普通救命（心肺蘇生法・AED）講習会（2025年7月26日実施）
- ・参加

（4）国際関連

① 学術交流協定締結校・機関（現在）

国立政治大学附属高級中学校（台湾）、日仏高等学校ネットワーク・コリブリ（フランス）、孔子課堂（中国）、ゲーテ・インスティテュート（ドイツ）、ハナ高等学校（韓国）、サントペテルブルク国立学校 583（ロシア）、ザビエルカレッジ（オーストラリア・メルボルン）、セントポールカレッジ（オーストラリア・シドニー）、北京大学附属高級中学（中国）、ラインガウギムナジウム（ドイツ）、ロクロア高等学校（フランス・パリ）、エデュケーション・ニュージーランド、パーマストンノース・ボーイズスクール、オークランド・ボーイズスクール（ニュージーランド）

② 派遣留学（長期）

留学一種：3名（USA：2名、フランス：1名）

留学二種（留学期間を含んで3年間で卒業できる留学制度）：4名（アメリカ：1名、カナダ：1名、ニュージーランド：1名、スイス：1名）

③ 派遣留学（短期）：62名（ニュージーランド：10名、コリブリ：4名、バンクーバー：30名、イギリス18名）

④ 受入留学：5名（アルゼンチン：1名、イタリア：1名、ウルグアイ：2名、ブルガリア：各1名）

⑤ 学術協定締結校・機関等による交流

- ・PASCH（Schulen: Partner der Zukunft）の各種行事への参加
- ・PASCH 青少年ドイツ語研修プログラム「Jugendkurs」派遣：8月2日～8月24日（1名）
- ・日仏高等学校ネットワーク・コリブリ短期フランス留学：3月（参加者：2名）
- ・東京国際フランス学園生徒の学院訪問：2月
- ・高校生親善訪中研修：8月（参加者：6名）
- ・台湾建国高級中学の学院訪問：4月（参加者：64名）
- ・台湾政治大学附属高級中学の学院訪問：11月（参加者：25名）
- ・ハナ高校国際シンポジウム参加（韓国・ソウル市）：7月21日～25日（9名）

⑥ その他：国際交流プログラムへの参加

- ・TYCA（東芝国際交流財団 ASEAN 交流プログラム）：東京3月
- ・International Partnership Project Opportunity(IPPO)：シンガポール1月

（5）その他

① 上石神井キャンパス整備の推進（第三期整備事業）

中高教員室、理科実験教室、家庭科教室、美術科教室、食堂、ラーニングcommonsなどを中心とした校舎建設の詳細について検討した。

② 創立 150 周年記念事業募金の開始

記念事業の一つとして位置づけられる第三期整備事業の募金を各方面へ広く呼びかけた。

③ 新教務システムの運用

出席管理と成績処理システムの運用開始と安定化に努めた。

④ 働き方改革の定着

勤務ルールの遵守と新勤怠管理システム運用の定着に努めた。

以上

2. 2026 年度計画

(1) 入試関連

①世界に羽ばたく人間を創る早稲田の一貫教育の推進(首都圏の優秀な生徒の確保)

卒業生のほぼ全員が早稲田大学へと進学する学院生に対し、三つの教旨を胸に「早稲田スピリット」をもって、中学生は 10 年間、高校生は 7 年間の「早稲田の一貫教育」のなかで自由・平等そして平和な社会に貢献する「すこやかで、しなやかでそしてたくましい」人材を育成する。

②入試広報活動の積極的展開

・早稲田の一貫教育に相応しい優秀な生徒を確保する。
・高等学院主催の学校説明会の実施だけでなく、民間主催の学校説明会などにも積極的に参加し、メディア等を活用した広報活動を推進する。

③「思考力・判断力・表現力」など総合力を評価する多様な入試の実施

中学部では面接、高等学校では「自己推薦入試」方式の総合的な選抜や「一般入試」での論文入試の実施など、思考力・判断力・表現力を問う問題の出題や総合力を問う入試選抜を実施する。

(2) 教育関連

①新しい時代へ向けた教養教育の実現

変化の激しい時代に応じた教養教育を施すことで、専門教育を見据えた早稲田の一貫教育に相応しい優れた生徒を育成する。

・基礎基本教育の徹底(3R's^{*1})：読む力、書く力、数学力
・探究的な学びの推進(4C's^{*2})：批判的思考力、コミュニケーション能力、協働力、創造的問題解決能力

*1)3R's：Writing, Reading, Arithmetic からなる Discipline-Based Learning

*2)4C's：Critical thinking, Communication, Collaboration, Creative problem-solving からなる Interdisciplinary Learning

②ICT を活用した新しい学びの創造

ICT を活用した教育のデジタル化をさらに推進し、柔軟で持続可能な教育方法をあらゆる学習機会において確立し、基礎的・応用的な学力を培うと共にその学びの質を保証し、新しい時代にふさわしい学びを創造する。

・中学部：PC 必携化のもと、ICT 教育を充実させる。
・高校：PC 必携化を実現し、すべての教科において ICT を活用した探究的な学びを推進する。また、全員に対して統計やプログラミングを必修とし、データサイエンス教育を充実させる。

③文理を融合しグローバルな視点をもった多様な学びの空間の確立

すべての教科、とりわけ社会科学系、自然科学系の授業と総合的な探究の時間等において文理を融合したグローバルな課題に取り組む探究的な学習を一層推進する。さまざまな国・地域との国際交流を展開し、部活動、プロジェクト活動など教科外活動を活性化する。そして、これらの取り組みを通してグローバルな視点を持った多様な学びの空間を確立する。

④キャリアデザイン教育の推進(学部アドミッションポリシーにかなう中高大一貫教育の推進)

大学入学者選抜を経ない学部進学において、ミスマッチのないキャリアデザイン教育に取り組む。具体的には、2 年生を対象に、学部モデル授業の実施、学院 OB などによる学部説明会などを実施し、各学部の協力を得て学部説明会などの実施を計画している。学院生が進学後も各学部・各分野で活躍できるよう中高大一貫教育を見据えたキャリアデザイン教育を推進する。そして引き続き、高大接続テスト(早稲田大学進学後に学術・研究を進めるにあたって求められる基本的な知識・技能がどの程度身についているか確認するテスト)を改善し充実させる。

・OB 進路講演会(社会人 OB 約 20 名、2 年生対象)：5 月実施
・モデル講義(各学部)：5 月実施
・学部生・大学院生と学院生との連携による進路説明会(希望者)：随時実施

・日本医科大学への医学部進学指導の充実とキャンパスツアーの実施(希望者)：4月実施

⑤第3フィールドでの活動の推進

・科目・部活動以外の探究活動や外部機関を通じた活動を推進する。

同窓会の学術書奨励金を利用した研究活動、他校・民間団体主催のコンテストや交流会へ参加させる。

・生徒の主体的な活動としてのプロジェクト活動を活性化する。

環境プロジェクト、教育プロジェクト、起業・投資プロジェクトなど

・本庄高等学院や系属校との連携を企画・実施する。

附属連携プロジェクト(WASS)など

(3) 研究関連

①研究誌(70号)発行と内容の充実

②外部研究資金への応募および獲得の推進

高等学院教員による文部科学省科学研究費、民間研究資金、学内研究資金などへの応募を促進する。

③教員研修(FD：ファカルティ・ディベロップメント)の充実

・普通救命(心肺蘇生法・AED)講習会

・生徒の発達等に関するカウンセリング研修会

・コンプライアンスに関する研修会

・研究倫理教育に関する研修会

その他、ネットワークを活用したオンデマンド授業環境の整備、教材開発、授業形態の研究を充実させる。

(4) 国際関連

①学術交流協定締結校・機関との交流の推進と新規開拓

ゲーテ・インスティテュート PASCH(ドイツ)、

ラインガウギムナジウム(ドイツ)、

日仏高等学校ネットワーク・コリプリ(フランス)、

ロクロア高等学校(フランス・パリ)、

サントペテルブルク国立学校 583(ロシア)、

日露青年交流センター (ロシア)

孔子課堂(中国)、

北京大学附属高級中学(中国)、

ハナ高等学校(韓国)、

国立政治大学附属高級中学校(台湾)

ザビエルカレッジ(オーストラリア・メルボルン)、

セントポールカレッジ(オーストラリア・シドニー)、

エデュケーション・ニュージーランド (ニュージーランド) 、

パーマストンノース・ボーイズスクール(ニュージーランド)

②派遣留学(長期)

第一種留学(留学期間を含んで4年間で卒業する留学制度)ならびに第二種留学(留学期間を含んで3年間で卒業できる留学制度)を推進する。

③派遣留学(短期)

中学部：セントポールカレッジ研修などを実施する。

高校：ニュージーランド短期留学、カナダ英語研修(夏休み)、ハナ高等学校シンポジウム参加などを実施する。

④受入留学

長期留学生(AFS、YFU など)、短期留学生(コリプリ、ハナ、北京など)を積極的に受け入れる。

⑤その他(国際交流プログラムへの参加など)

・中学部：ICC のアウトリーチ

・高校：キアオラプログラム(ニュージーランド)、TYCA(Toshiba Youth Club Asia)、IPPO (International Partnership Project Opportunity シンガポール)、高校生親善訪中研修(日中国際交流協会)など

(5) その他

①上石神井キャンパス第三期工事の準備

教員室、理科教室、家庭科教室、美術科教室、食堂、ラーニングコモンズ、保健室などを対象とした第三期工事の準備を早急に進める。第一期工事以来続く高等学院の教育の特色を実現するのに相応しい校舎建設を通して、安心・安全なキャンパスづくりを目指す。

②あらゆる災害から命を守る安心・安全なキャンパスづくり

首都圏大規模地震対策などを推進し、安心・安全なキャンパスづくりに心がける。

③教員の働き方改革の速やかな実行

勤務管理の見直しと勤務管理システムの定着を目指し、教員の働く環境を整備する。

以上